
男根のエスノグラフィ
ーマラコヴィアの性と排泄ー
成人向け
R18
ADULT ONLY
18歳未満
購入・閲覧禁止


マラコヴィア諸島
ニュージーランド島の東北東
約1200kmの南太平洋上に位置する
大小数十の島々からなる諸島国である
世界初の気象衛星タイロス1号により
1960年に再発見されるまでの間
複雑な海流と気流によって数百年に
わたり周辺地域から断絶していたため
現在でも原始的かつ独自の文化風習を
色濃く残しており、国民の90%が
近代文明を拒絶している
マラコヴィア人の文化には
アボリジニ、ポリネシア、バヌアツ
遠くはパプアニューギニアなどの地域
からの文化的影響も見られることから
過去に周辺地域との交流を持っていた
ことは伺えるものの、Y遺伝子ハプロ
グループ分類では固有のSタイプであり
その人種的起源についてははっきり
していない

私はマラコヴィア最大の島であるジラ島の内陸部へと向かっている。

マラコヴィア人の特異な性―特にこれまで先立つ研究のない「性的追放者」の生活について参与観察を中心とした長期の調査を行い、その民族誌を作成するためである。

はぁ

はぁ

私(28)
大学研究員

幸いにも私はジラ島上陸すぐに現地協力者を見つけることができた。

He He…

※彼女の名はモコ

〝通過儀礼(イニシエーション)〟から逃避し性的追放を受けたという両性具有者である。

彼女がジャングルで独り暮らす小屋で私はフィールドワークを始めることにした。

このままいけば順調に調査を進めることができそうだ。

※マラコヴィアにはふたなりを表す三人称が存在するが、翻訳不能なため便宜上「彼女」と呼称する。

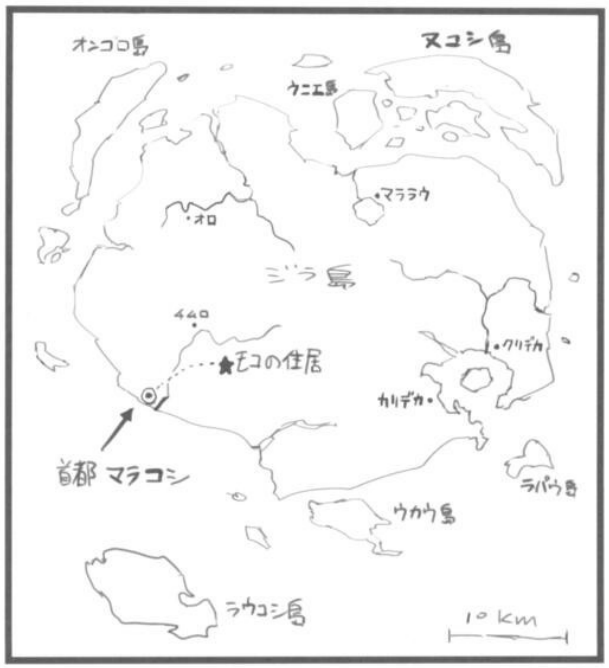
私がモコと出会ったのは
全マラコヴィアで
唯一の市街である
ジラ島の空港前大通りを
ガイドのあてを探して
歩いていた時のことだった

マラコヴィア国外から
あらかじめガイドを探す
ことは不可能だったので
ジラ島到着後に現地で
交渉するほかなかったのだ



全裸の彼女は昼日中の
ストリートの中央で
大きく股を割って立ち
その股間にぶら下がる
巨大な陰嚢を振り子の
ように回転させながら
60㎝は優に超えるで
あろう勃起した陰茎を
天高く扱き上げていた

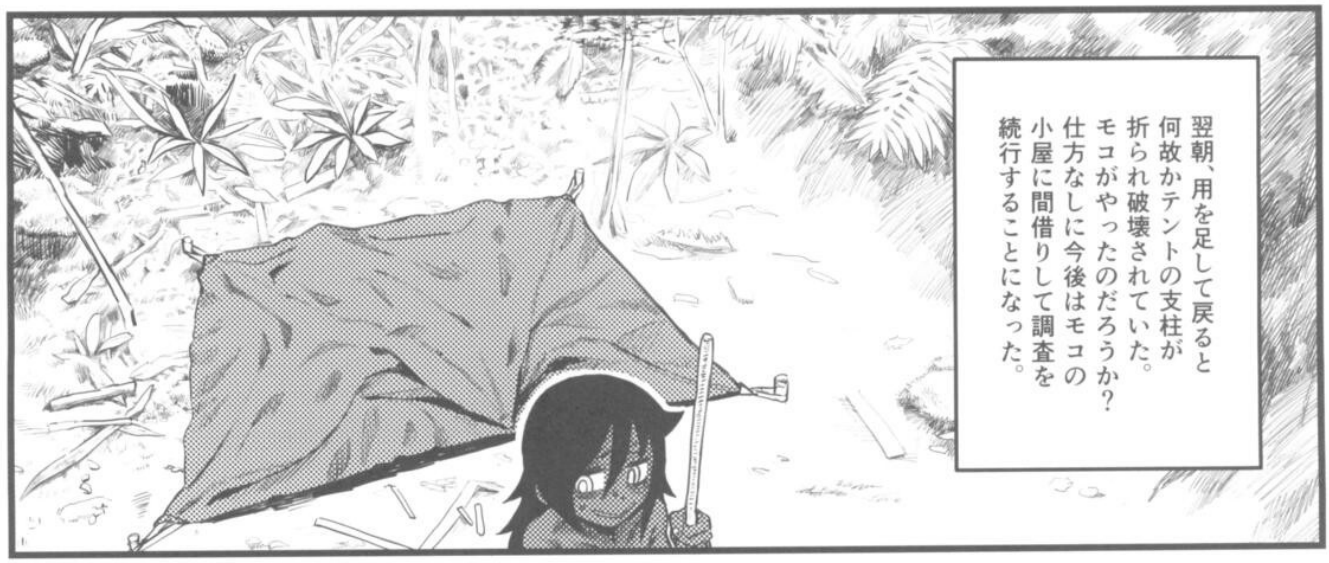
後にこれは
共同体を追放された
者におけるごく一般的な
性的配偶者の誘引・選別
行動というべき
ものだったと知るが
この時はただただ困惑と
羞恥を覚えるのみだったと
認めざるを得ない。



モコの住居は海沿いの首都マラコシ(といっても小さな町だ)から、内陸に10kmほど移動した密林の中にあった。近隣のどの集落からも一定の距離をおいた追放者の独居である。

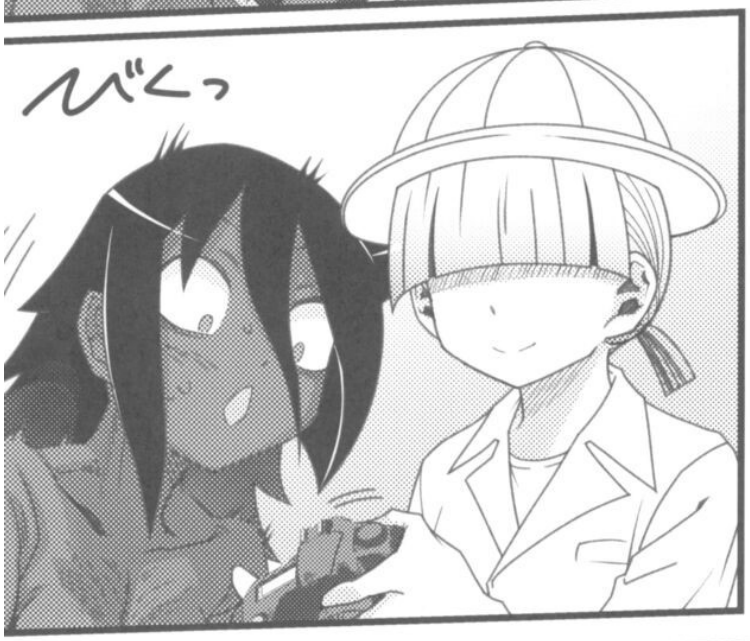


「私の手淫小屋にようこそ」そういってモコは私を小屋へ迎え入れてくれた。確かに小屋には熱帯雨林のむせ返るような匂いに負けないほどの圧を持った精液臭が立ち込めていた。60日間のフィールドワークはこの小屋の隣にテントを建てて行うことにする。

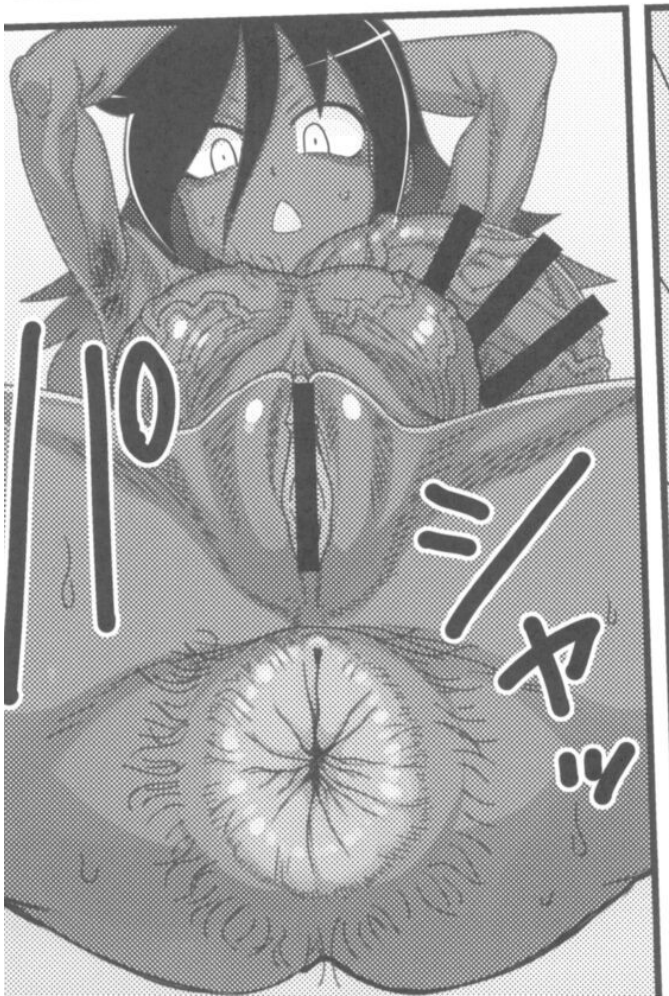


翌朝、用を足して戻ると何故かテントの支柱が折られ破壊されていた。モコがやったのだろうか？仕方なしに今後はモコの小屋に間借りして調査を続行することになった。


?


びくっ


朝の水汲みの光景
パーシャ
パーシャ


シャッ


小一時間ほどかけ
カメラの概念を
大まかに理解したモコが
最初に頼んできたことは
自分の肛門を撮って見せて
欲しいというものだった。
モコの突然の要求に
狼狽したものの
冷静になって考えれば
マラコヴィア人としては
自分の肛門の姿かたちを
知りたいという欲求は
ごく常識的な関心と
言えるものだったので
私は快諾してみせた。


モコ（推定14歳）
性別：ふたなり（真性半陰陽）
マラコヴィア／モタワ族出身
身長／143ｃｍ　体重／65kg
睾丸重量／12kg　男根全長／763mm
平均射精量／3.5リットル　一日平均射精回数／18回
マラコヴィア人は一様に肥大化した性器を有するが、モコのそれはマラコヴィアでも格別な大きさと言えた。
体毛の濃さや筋肉質な肉体はふたなりの中でも男性ホルモンの分泌量が多いことを示している。
一日の射精回数も多く自慰の合間に生活をしているといった様子であった。



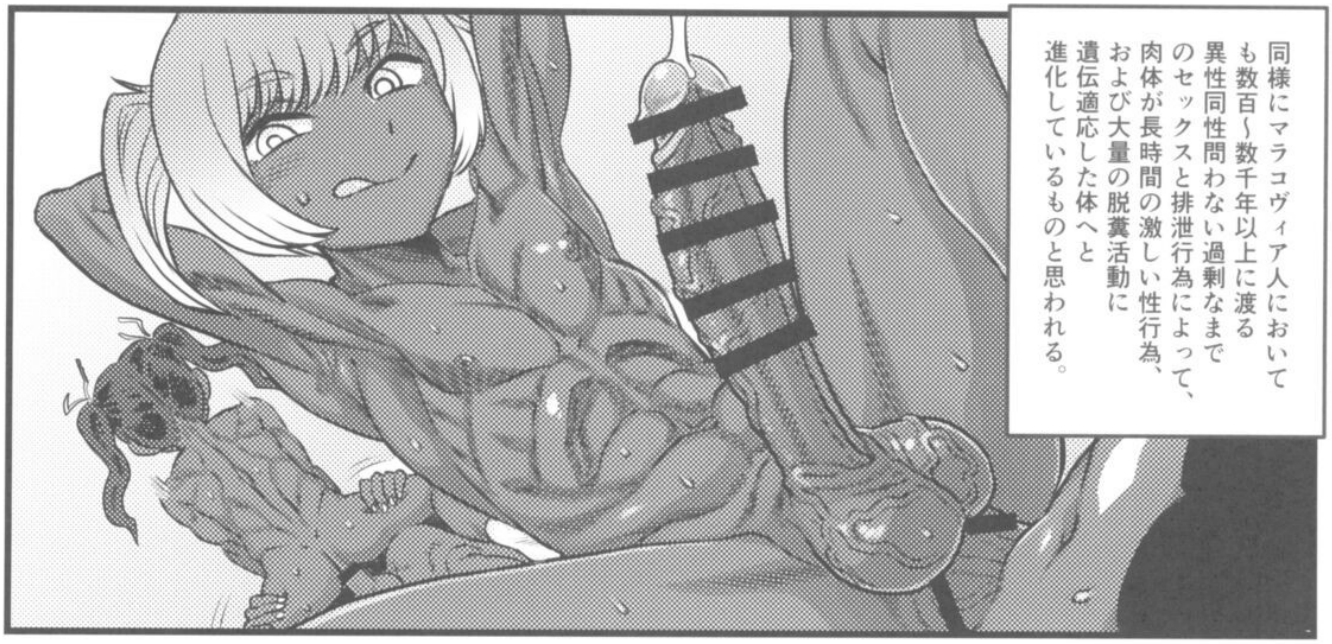
また、男根に並ぶマラコヴィア人の特筆すべき身体的特徴といえば、やはりその肛門であろう。極限まで肥大化した括約筋と肛門は、マラコヴィア人を初めて見た時に尻たぶが3つあるのではないかと誤認したほどだった。
その見た目に反さず、マラコヴィア人の肛門は驚異的な排出圧を持つことが今回のモコへの身体測定で判明した。それが後述する大量排泄を可能とするのである。

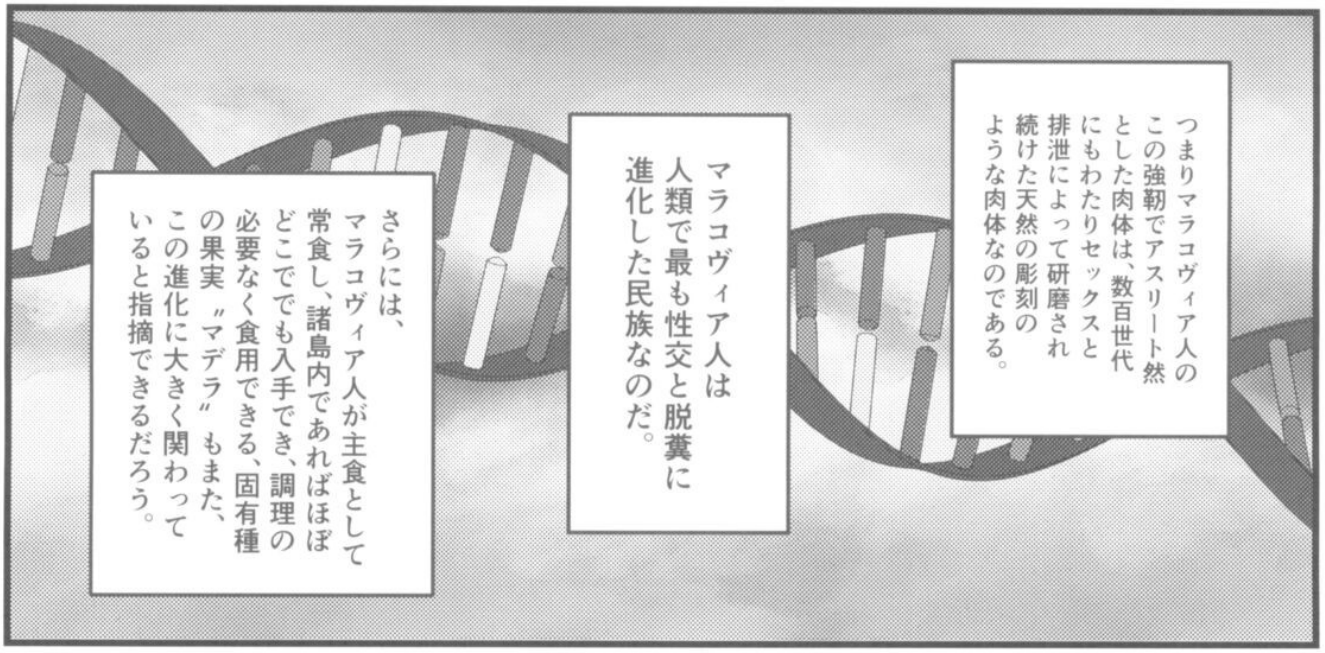
医療用バルーンで肛門圧測定をするモコ

肛門(閉口時)／長径16cm 短径12cm
肛門(開口時)／長径22cm 短径20cm
肛門排出圧／2800ml
(非マラコヴィア人平均の約93倍)

膣口(長さ)／72mm
大陰唇(長さ)／182mm
小陰唇(長さ)／90mm
小陰唇(幅)／48mm
クリトリス(長さ)／58mm
クリトリス(幅)／19mm
備考／処女膜無し
性交によるものではないと思われる


インドネシアのバジャウ族は
1000年以上もの日常的な
潜水によってDNAが海中で
の活動により特化して変異し、
水深70mに15分間素潜りして
いられる驚異的な肉体を獲得
している。
民族全体が水中生活に
遺伝的に特化した体へ
と進化しているのだ。


同様にマラコヴィア人において
も数百〜数千年以上に渡る
異性同性問わない過剰なまで
のセックスと排泄行為によって、
肉体が長時間の激しい性行為、
および大量の脱糞活動に
遺伝適応した体へと
進化しているものと思われる。


つまりマラコヴィア人の
この強靭でアスリート然
とした肉体は、数百世代
にもわたりセックスと
排泄によって研磨され
続けた天然の彫刻の
ような肉体なのである。
マラコヴィア人は
人類で最も性交と脱糞に
進化した民族なのだ。
さらには、
マラコヴィア人が主食として
常食し、諸島内であればほぼ
どこででも入手でき、調理の
必要なく食用できる、固有種
の果実〝マデラ〟もまた、
この進化に大きく関わって
いると指摘できるだろう。

マデラとはマデラ目（オモダカ目とする説もある）マデラ科マデラ属のマラコヴィア固有種の熱帯植物である。

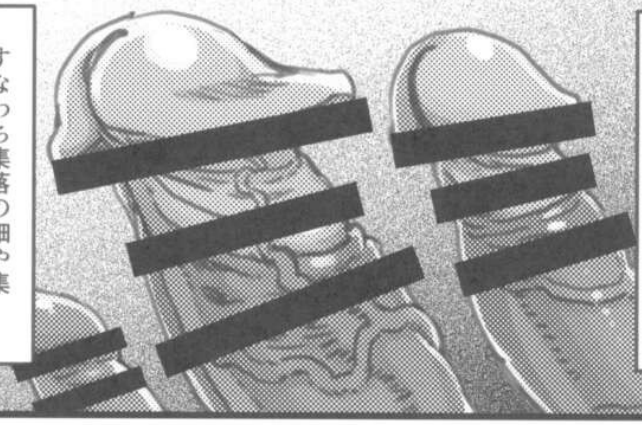
Madera maracoviacenses Ito

Maderales, Maderaceae,
Maderaus,

一見して短いバナナのようなその果実は、マンゴーの甘味、柑橘類の酸味、バナナの食感を兼ね備えた非常に美味なものであり、マラコヴィア人はほぼ例外なく、これを主食としている。



Madera Fruits



また、この実の成分には強い強壮作用があり、さらには成長ホルモンの分泌を促すことで性器の成長を著しく促進させ、マデラを多く摂取するほどにこの効果は高まる。

すなわち集落の畑や集団狩猟の恩恵に与れない追放者ほど、マデラの摂取量が相対的に多く、かつ暇を持て余して自慰に耽る時間も増大するため、局部肥大の傾向が強まる。モコは典型的な追放者型の男性器及び肛門肥大であろう。

さらには多世代に渡るマデラの常食によってマラコヴィア人の腸内環境は遺伝的にも大幅に変異しており、特殊な酵素の作用によって類例を見ない特殊な能力を得ている。大便が食用可能となり、栄養の再摂取が可能となっているのである。

高地環境下に生息するある種のナキウサギは糞食によって栄養の再摂取を行うが、栄養の豊富な熱帯環境下でこのような機能を人類が獲得した理由は現在のところ不明であり、さらなる研究が待たれるところである。

いずれにせよ、この特殊能力によって、マラコヴィア人は排泄物に忌避感を持たず、それどころか食料、性的嗜好品として日常的に愛好し、さらには物々交換の代用品として原始的な貨幣のように用いさえするのである。

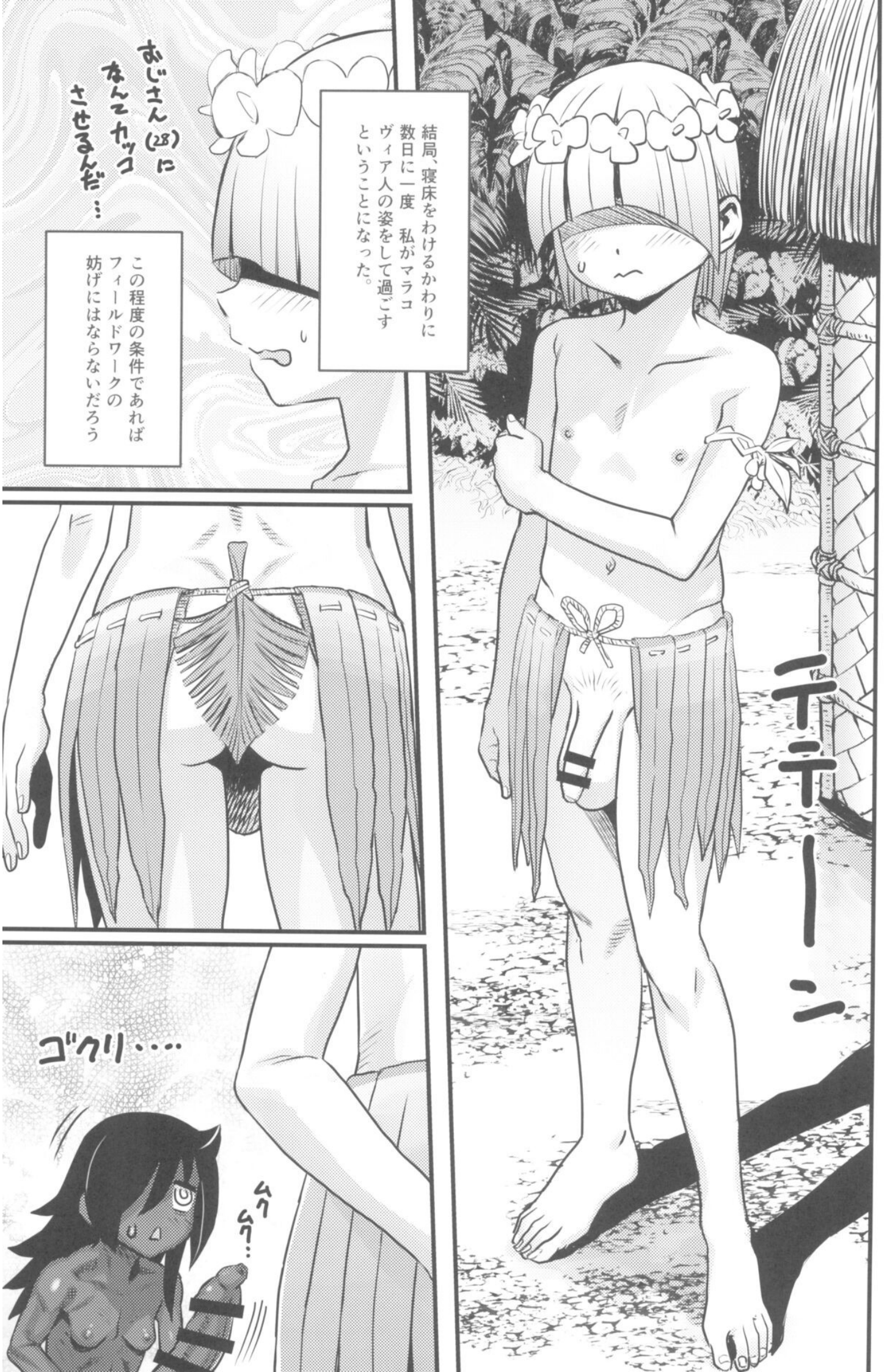

モコの小屋で
暮らし始めて
三日が経った。


すー
すー
概ね順調だが
一つだけ困った
ことがある。


朝勃ち
してる…
モコが私を
抱き枕に
するのである。
びん
びん
もぞ。


だから僕は床に寝袋で
寝るからベッドは
モコが独りで……
※マラコヴィア語
観察対象との
距離が近く
なりすぎるのは
良いことではない。
……
ポリポリ


なにそのカオ…
しかし下手に断ると
今後の協力関係に
悪影響が出る可能性
もある。私は判断を
迫られ、悩んだ。


テテーン
結局、寝床をわけるかわりに
数日に一度　私がマラコ
ヴィア人の姿をして過ごす
ということになった。
この程度の条件であれば
フィールドワークの
妨げにはならないだろう
おじさん(28)に
なんてカッコ
させるんだ…
ゴクリ…
ムクムク…


はぁ～めっちゃエロい
朝のセンズリ捗るわ～
性的追放者には、より強い
快楽を生み出そうと先鋭的な
自慰にはまる者が多い。
他者との性的交流が途絶え
てしまうことにより、独力で
工夫をこらすことしかできな
くなるからである。
ハァハァ
ぐぐっ…
頼んだらチンポしゃぶって
くれないかな……いや無理か
その点において
モコの自慰はまだ
そこまでの先鋭性
を見せてはいない。
もっとマデラ
食わせないと
これは追放から
まだそれほどの期間が
経っていないことと
無関係ではないだろう。
う～…なんでもいいから
チンポ突っ込みて～…
まゅっ


ゴゴゴゴ
ゴゴゴゴ
フーフー
フーフー
ずっ
ずずっ
その日の朝のモコのオナニーは5回の雄叫びの後幕を下ろした。

マラコヴィア人の
排泄について

先述したが
マラコヴィア人は
（自分たちのもの限定だが）
便に忌避感を抱かない
希少な民族である。

それゆえ排便は
娯楽性を伴い、
時には祭事化する
ことさえもある。

祭りの催し
として行われる
ことが多いのは
脱糞競争である。

排泄量を競うもの
便の長さを競うもの。

どれだけ長時間
脱糞し続けられるか
を競うもの等々…。

さながら
脱糞オリンピック
の様相である。

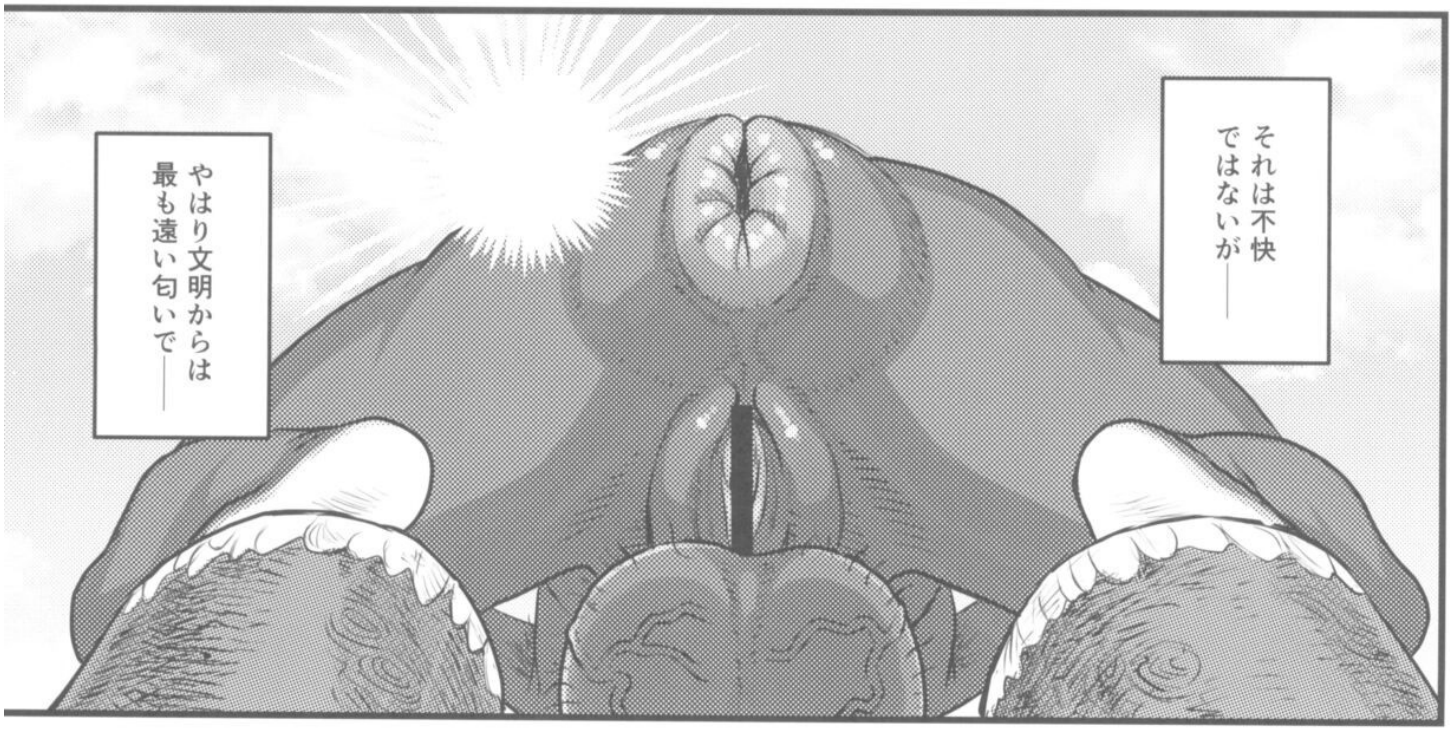

モコの脱糞も一昨年フィールドワークしたそれらの村々にひけを取らないほどのものであった。
もし森でモコの糞と遭遇したならば、体重500kgのヒグマのものと誤認する可能性すらあるだろう。
うんこが見たい？いいぞ♥
むくっ…
ぎゃっ♥
ぎゃっ
ゆさ、ゆさ、
モコの小柄な体のどこにこれほどの量の大便が詰まっていたのかと思うほどである



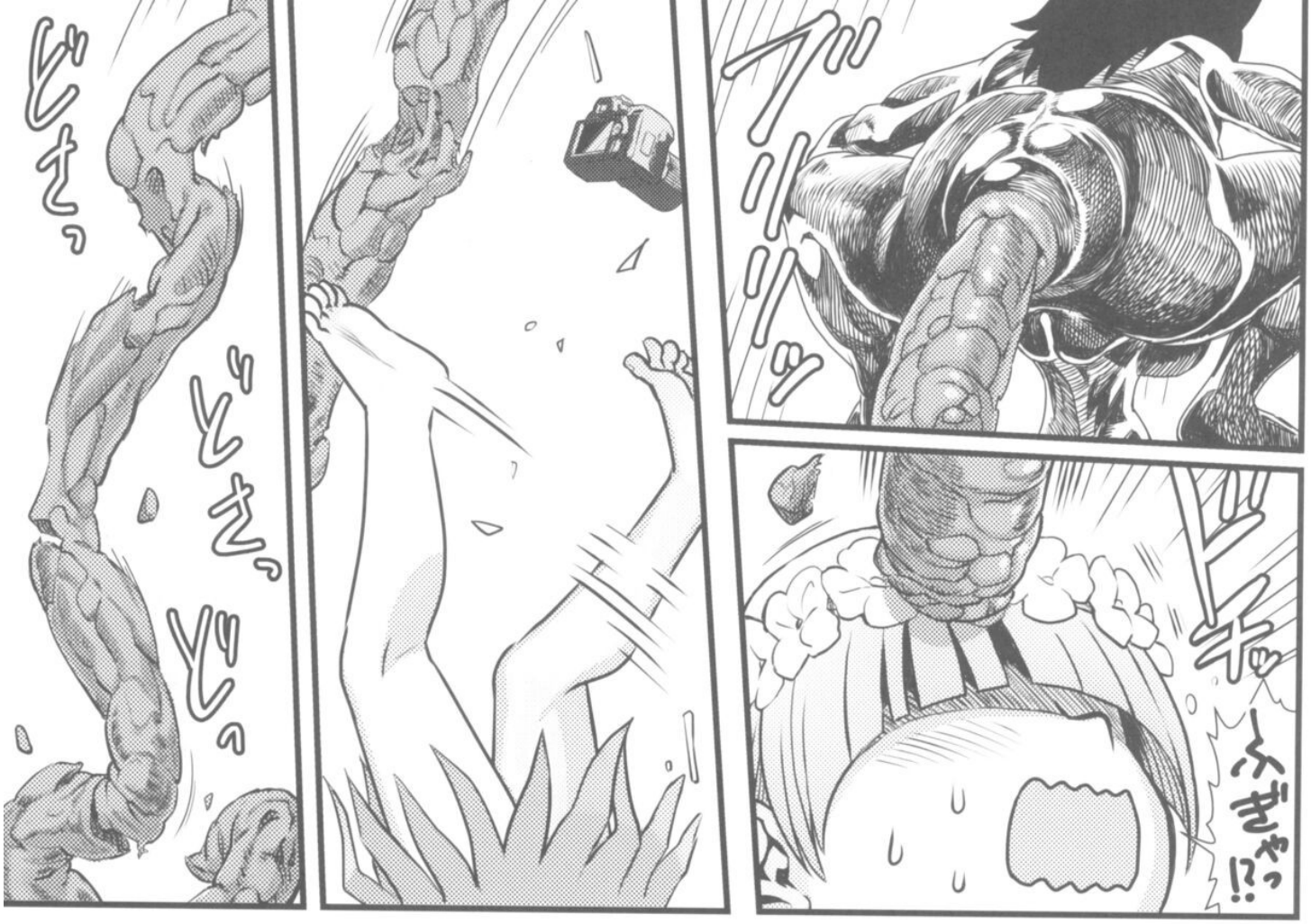
※モコの脱糞柱は独りで建てるには困難な大きさであったが、後に古い集落跡に住居を構えたのだとの証言が得られた


ひゃっ！
どそどそ、
見てろよ～もっといっぱい
出してやるから♡


ちょ、ちょっとモコ
そんなにはりきらなくても
普通に見せてくれるだけで
いいんだよ！
マデラを常食する人間
特有の、柑橘類のような
甘酸っぱさと蒸れた
密林の陰花の香りを
合わせたような便臭――

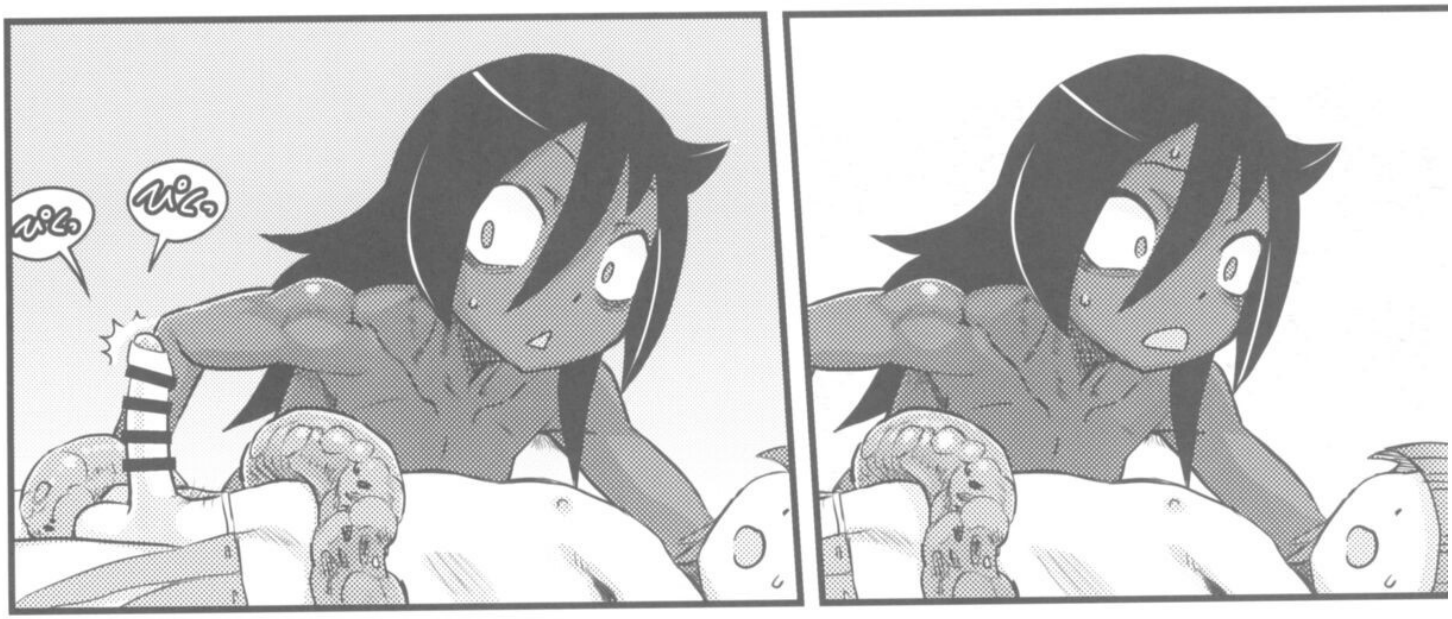

それは不快
ではないが――
やはり文明からは
最も遠い匂いで――


うわっちょっ
まってまってカメラ
みちっ
みちっ
みちっ
よーく見とけよ♥
わたしの本気脱糞♥
た〜っぷり！
出してやるからな♥


ドキッ
ふぎゃっ!?
ドサッ
ドサッ
ドサッ


ハァハァ♡
ペロ…
きゃっ
むわぁっ…

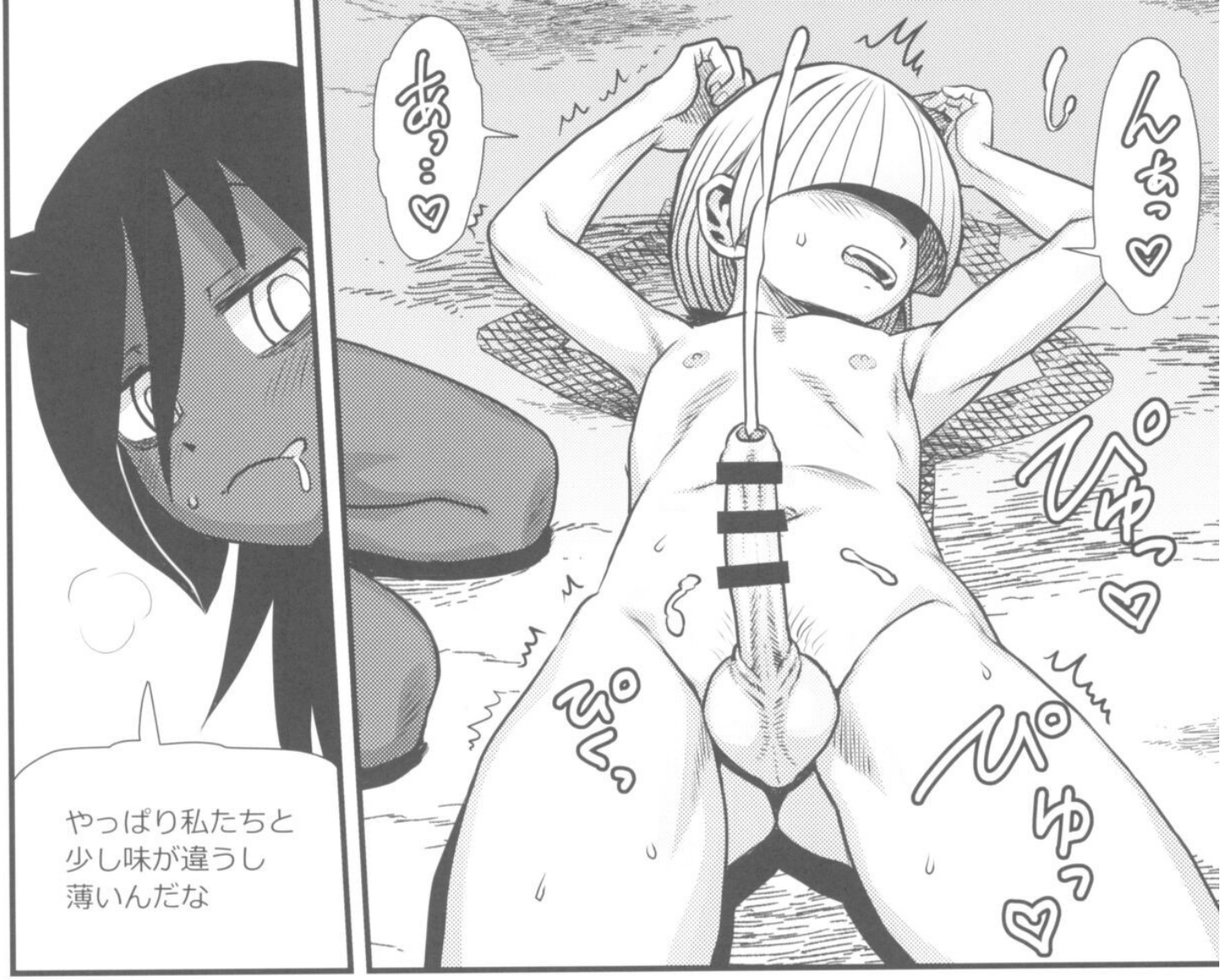






※私の名前は柚木育(そだち)


ビクンッ
ふひゃっ!?
おわっ!?
もぞもぞ
モコ!?
あっやめっ♡
ちゅぶぶぶ
んにゃあっ♡
ちゅぽっ♡
ちゅぽっ♡
ぢゅうう
あっ♡♡♡
あ〜〜っ!!♡


んぁっ♡
あっ…♡
ぴゅっ♡
ぴゅっ♡
ぴゅっ♡
やっぱり私たちと
少し味が違うし
薄いんだな


でもだいじょうぶ
気にするな
マデラ食って
私のうんこもモリモリ食って
はやく立派なマラコヴィア人になろうな


へへへ…
しんぱいするな
まだまだいくらでも
うんこひり出せるぞ
ぶりっ♡
むりむりっ♡



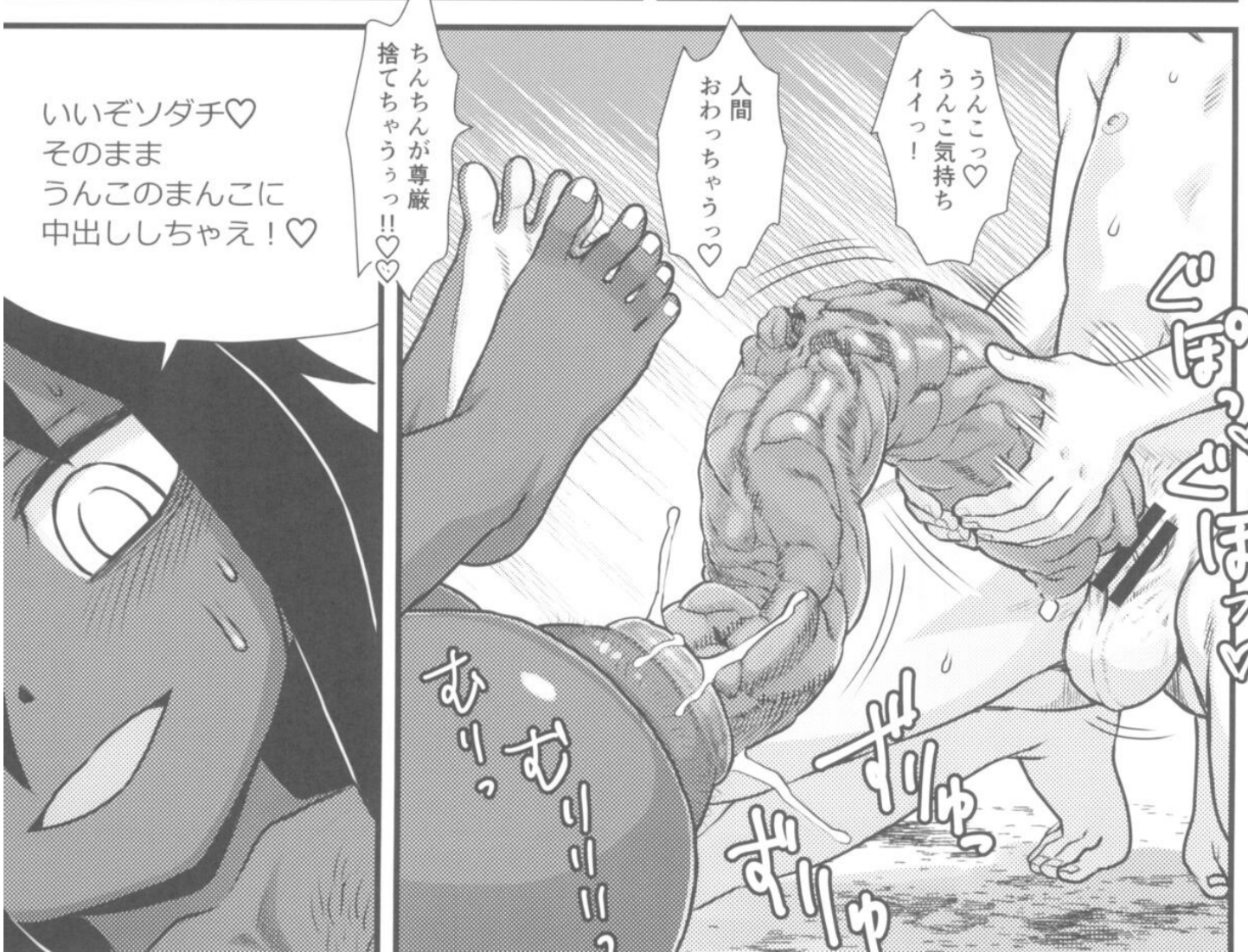

ちょっ…ちょっと
そっちはまだ
心の準備が……
できれば
最後まで…


ああぁ～っ！
モコの大便が口内に
押し込まれた瞬間に
舌に広がった味は
僅かな甘味と酸味を備え
意外にも不快なもの
ではなかった。
はふっ
むちっ
マデラの常食によって
マラコヴィア人の大便が
食用可能になっている
という知識は持っていたが
味すら食用に適するものに
変化しているとは
完全に想定外であった。
むふっ
れろ～っ


ほら　うんこの中に
おもいっきり突っ込んで
チンポでかき混ぜろ♡
ぐぐぐ
ぐぐぐっ
ぐぐぐ
みちっ♡
みちっ♡
ぼぉ
私のうんこが
おまえのチンポを
立派なマラコヴィアの
オスにしてやるからな♡
ぶるんっ
べんっ


な…なんで身体がこんなに火照って…
ほらほら早く♡
私のうんこがお待ちかねだぞ♡
ずっ
ぬぶっ
ふわあっ!?
うんこが…吸い付いてっ
はあっ
はあっ
むわっ
ずっ


モコっうんこ
止めてっ♡
こんなのおかしいっ！
こんなセックスっ
文明人やめさせられちゃうっ!!
ぎゅ
ぎゅっ
ずっぽ♡
ずっぽ♡


いいぞソダチ♡
そのまま
うんこのまんこに
中出ししちゃえ！♡
ちんちんが尊厳
捨てちゃうぅっ!!♡♡
人間
おわっちゃうっ♡
うんこっ♡
うんこ気持ち
イイっ！
ぐぽっ♡
ぐぽっ♡
むりっ
むりっ
ずりゅっ
ずりゅ


オラッ!!!♡
イけっ!!♡
ビュルルルル
ぶるんっ
オッ♡
オッ♡


さしもの私もこれには
自己嫌悪に襲われたが
マラコヴィア式の手荒い
洗礼と思い気持ちを
切り替えることにした。
大丈夫か？
しくしく
うんこで童貞
喪失しちゃった…


なんだか下半身が
大きくなってきたような…
ぷりんっ♡


そして
3日後の朝

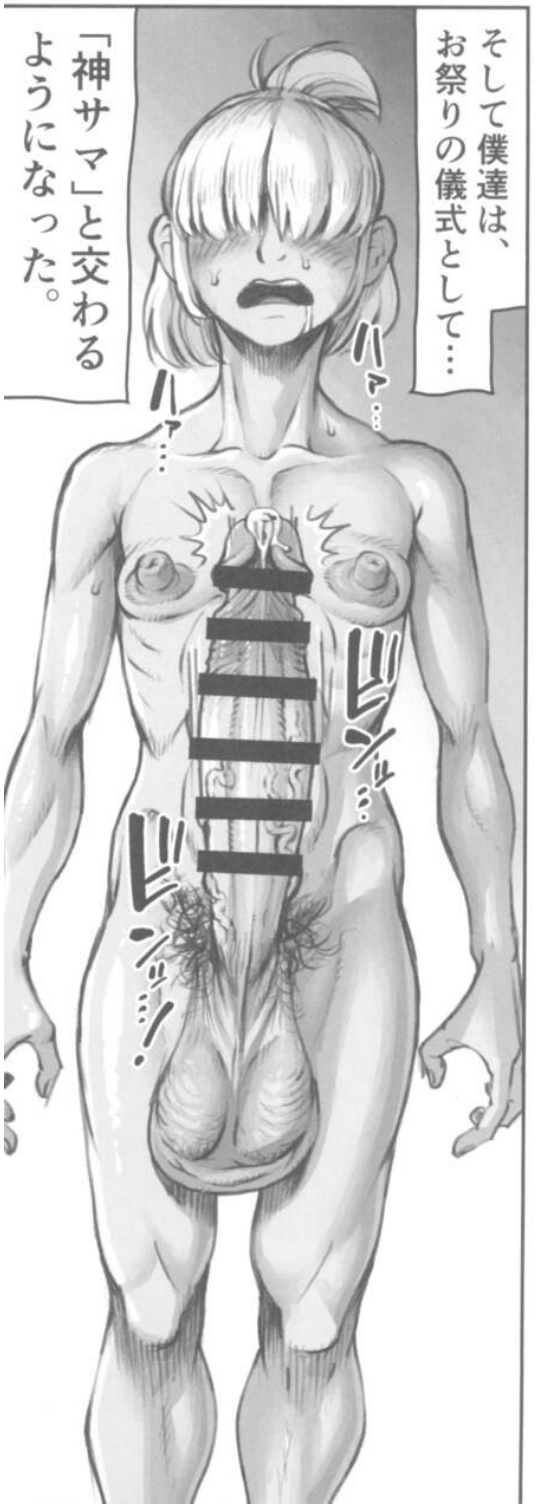

た…たしかこっち
集落の跡地…
がさ がさっ

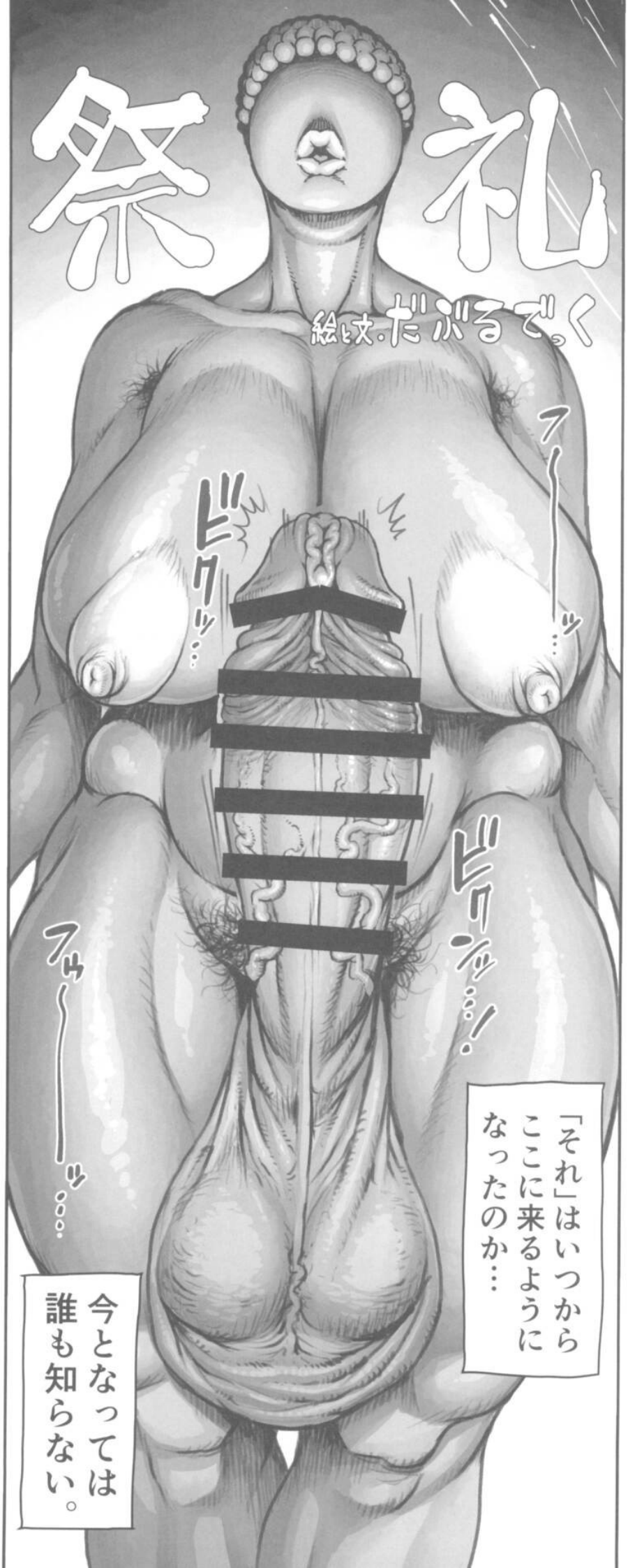

む…無人て聞いてたけど
どうやら先客が
いるみたいだな…？
どうする？コウメちゃん
じゃ…じゃあ
挨拶しないとね
ショーコちゃん
To Be Continued?

祭礼

絵と文・だぶるでっく

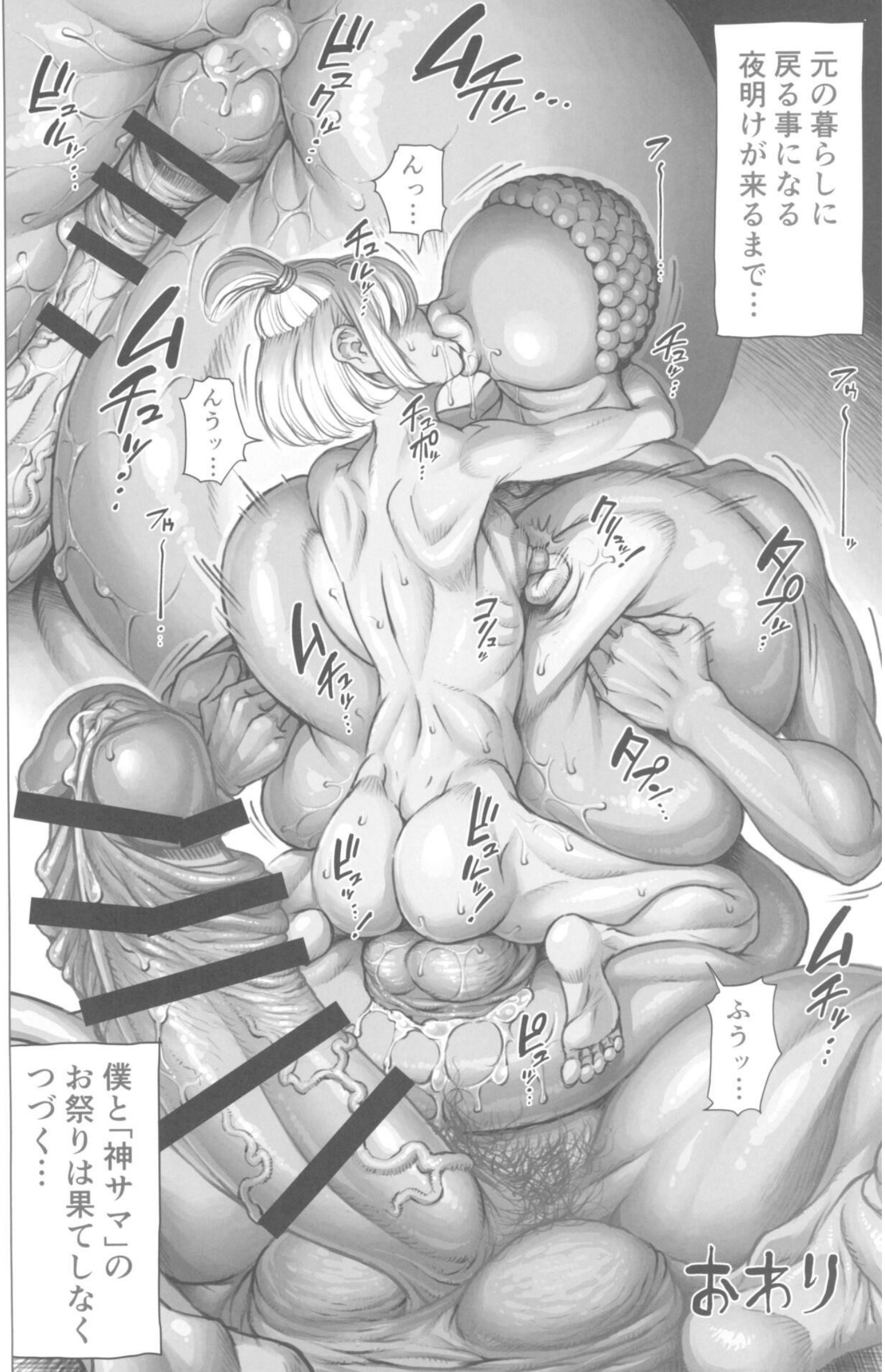







「神サマ」との交わりは想像を絶する快楽で…
僕たちはもはや…
「神サマ」の母なる肉体の虜だ。


「神サマ」の
不思議な力で
いくら射精しても
勃起は収まらず…
僕はひたすら
肉と粘膜の海に
溺れる…


元の暮らしに
戻る事になる
夜明けが来るまで…
ムチュッ…
ビュクッ…
ビュルッ…
んっ…
チュルッ…
ムチュッ…
チュッ…
フゥ～～～ッ
んうッ…
チュポッ…
フゥ～～～…
クリュッ!
タプッ…
コリュッ
ムチュッ…
タプ…
ビュルッ!
ビュッ…!
ムチュッ…
ふうッ…
ビュッ…
僕と「神サマ」の
お祭りは果てしなく
つづく…
おわり


～クソデカチンポ澤梓VSマラコヴィアの民～
(なんか既視感？)
ぎゃあ！
違うんです!!おちんちんが勝手に…
ごめんなさいごめんなさい!!
えっ、
ちょっ…なんで裸…!?





身ぶり手ぶりで
ウンコ相撲を説明する
百合夫ウン

作・破壊大帝






それじゃあ早速…
えいっ
にゅぼっ
なにこれやばいっ♡モコのウンチ
ズボズボしてキモチいい♡
んんっ♡そんなにイキむんじゃねえっ！
ぐぎっ♡
ウンコとびでるっ♡
むりむり
ぶぼぼっ!!
あ♡
ふ〜〜ゅ〜〜っ♡

マラコヴィアの慣習
- 絆の宴 -

作：BC
(BurningCore)



この儀式は通常、新しい家族や村の設立を記念して行われる。メンバーが新しい絆にもたらすものの象徴として、メンバー全員と参加を希望する友人や親戚は自分のペニスにハーブとオイルを混ぜたものを手で塗って、一番大きなメンバーのペニスに挿入する。





最終結果が混ざりすぎないように、参加者は自分の寄与度を大きいメンバーから順に小さいメンバーへと足していく。ペニスのない人は他人のペニスに油を塗ったり、自分で作った風味豊かなハーブペーストをゴーヤパイプで足したりする。


セッティングに2日かけると、儀式はほぼ完了する。待つことで料理が均一な粘度になりまた調味料が精液に完全に浸透する。また熟成させることで塩味が濃厚になり、マラコヴィア群島で知られる多くの自生フルーツと好対照をなす。
共同体の儀式なので精液を放出するのは共同体全員の責任です。濃くなったものを動かすのは難しいので、シャフトを動かす手助けは一般的に喜ばれる。
マラコヴィア全土にこの儀式の地域的な違いがあり、その多くは新しいグループの他のメンバーが最終結果に貢献する方法を見つける。

マラコヴィア人物名鑑

■ショーコ
集落から外れた森に住む呪い師
キノコを原料とした薬を作ることに長けており
幻覚剤から虫下しまで多くの薬を作れる
人見知りだが同年代のサチコ、コウメとは仲が良い
ペニスは非勃起状態でも１mに迫る
かなりの巨大さで
その尿道を用いてコウメやサチコと
精力的に交尾をしているようだ



マラコヴィア人物名鑑

■コウメ
マラコヴィアでは身体的に特異な
特徴を持って生まれた者は
巫女として育てられる
コウメも二本のペニスを持つ
特異体質である



見えないものが見える
というコウメは
セックスをすることで
霊と交信し
その言葉は祖霊信仰の
マラコヴィアでは
強い力を持つ

呪い師のショーコと
仲がよく祈祷に使う
薬草などを融通して
もらっているようだ
もちろん肉体関係もある

マラコヴィア人物名鑑

■アリス
数年前まで集落に滞在していた
アジア人の探検家の男と
村の女の間に生まれた少女
名付けも父によるものだという
まじめな性格で年下の子供の
子守をしている

年齢にしては尻が大きく
肛門も十分に発達しているため
年下の子供たちへのおやつとして
糞をひり出していることが多い
より美味になるように
マデラ他食事の内容には
気を使っている

マラコヴィア人と異人種の
ハーフは非常に珍しく
また片言ながら
父親の母国語と英語の
会話もできるため
ときには外国人の
ガイドをすることもある



いつか父の国を訪れるのが
夢だという

マラコヴィア人物名鑑

■カオル
元気いっぱいに脱糞
している姿をよく見る
愛らしいふたなりの少女
アリスの友人
年下の子供らの精通を
サポートしており
特に自分の糞を使った
愛撫には大人も
唸るほどだという

ペニスも幼くして
かなりの巨大さであり
将来性も高く期待されている



マデラの果実の質を
見定めるのが上手く
糞にこだわりのあるノノから
よく収穫と選別を頼まれている

マラコヴィア人物名鑑

■ノノ
気弱で引っ込み思案な少女
毛深い体質にコンプレックス
を感じている
しかし強烈な多糞体質で
起きている時間の
４分の１くらいは
脱糞をしている
また自分の糞に対して
偏執的にも思えるほどの
愛着を持っているようで
マラコヴィア人では珍しく
他人に与えることは
ほとんどない



しかしそれゆえか
糞の質は非常に高く
ショーコが希少の薬や
自分の尿道での性処理と交換で仕入れている

マラコヴィア人物名鑑

■カナコ
ふくよかな肉体の少女
ノノと並び大量で
美味な糞を排泄するが
ノノとは違い社交的で
快く皆に分け与えるので
周囲からの人望が厚い
また料理も得意であり
食材や調味料の知識も深い
基本的に原始的でシンプルな
調理法が主なマラコヴィアに
於いて高度な料理の
概念を持つカナコは
貴重な存在である



反面自分の糞を調理することは
あまり好まず
「お尻の中で調理済み」
だそうだ

あとがき

こんにちは、ラヂヲヘッドです。

今回の新刊は、これまでずっと構想を膨らませてきていた南国土人スカトロ島、マラコヴィア諸島の本になります。これまで小説やちょっとしたイラスト集は出していたんですが漫画をきちんと描いたことがありませんでしたので、ついに出せた念願の一冊です。これまでなかなか漫画を出せなかった理由として、このマラコヴィアという特殊な舞台を漫画で説明するにはかなりのボリュームになることが明らかであったため、相応の準備や制作期間が必要になったということがありました。そのため製作開始から完成までには結構な時間がかかってしまいましたが、南国の島の光景やマラコヴィアの文化習俗などに関しては。その入口のところまでは出来得る限りに描き切れたのではないかと思っております。

今回もまた、本文の塗りの支援に破壊大帝さんのお手を借りております。塗りの９９％は破壊大帝さんによるものですので、この本のクオリティもその多くは破壊大帝さんのおかげでここまで保てたものとなっております。どうも有難うございました。

後段のラヂヲヘッドのイラストは昨年末にごく少部数発行した当誌の準備号に掲載されたものです。もし続編を描けることがありましたら、本編ラストに登場したコウメとショーコに加えてもう何人か出して主人公やモコと絡ませられたならと思います。

お忙しい中すばらしい原稿をご寄稿いただいたゲストの皆様、この尖ったテーマでお描きいただけるのは感激の至りです。本当にありがとうございました。

読者の皆様も楽しんでいただけましたら大変幸いです。

2023.8.7
ラヂヲヘッド

CONTENTS(敬称略)

03　ラヂヲヘッド
33　だぶるでっく
37　死にそーなコオロギ
38　わるものとみい
40　破壊大帝
42　BurningCore
44　ラヂヲヘッド

奥付

発行日：2023.8.13
コミックマーケット102

発行者　：革命政府広報室
連絡先　：radioheadparano@gmail.com
X　：https://twitter.com/Radio_paranoia
Booth　：https://radiohead.booth.pm/
FANBOX　：https://radiohead.fanbox.cc/
印刷所　：上野印刷所


革命政府広報室
2023夏